

令和元年度 第2回小牧市まち・ひと・しごと創生推進懇談会 議事要旨

日 時	令和2年2月13日(木) 13時30分～15時30分
場 所	小牧市役所本庁舎 6階 601会議室
出席者	<p>山下 史守朗 (小牧市長)</p> <p>【委員】(名簿順)</p> <p>名和 千博 小牧商工会議所 水野 有香 名古屋経済大学 伊藤 博美 椋山女学園大学【座長】 田中 秀治 小牧市社会福祉協議会 坪井 俊和 大城児童館</p> <p>【地方創生アドバイザー】</p> <p>西村 健 日本公共利益研究所</p> <p>【事務局】</p> <p>駒瀬 勝利 市長公室 秘書政策課長 安藤 誠 市長公室 秘書政策課 市政戦略係長 倉田 和典 市長公室 秘書政策課 市政戦略係</p> <p>【小牧市まち・ひと・しごと創生推進委員】</p> <p>小塚 智也 市長公室長 石川 徹 市長公室次長 入江 慎介 市長公室地域協働担当次長 長尾 正人 総務部次長 竹内 隆正 地域活性化営業部次長 林 浩之 市民生活部次長 伊藤 俊幸 健康福祉部次長 櫻井 克匡 こども未来部次長 前田 多賀彦 建設部次長 鵜飼 達市 都市政策部次長 梶田 達人 上下水道部次長 松浦 智明 市民病院事務局次長 高木 大作 教育委員会事務局次長 (学校教育担当) 松永 祥司 教育委員会事務局次長 (社会教育担当) 高橋 博之 副消防長 伊神 彰 消防署長</p>
傍聴者	3名
配付資料	<p>資料1 委員名簿</p> <p>資料2 小牧市人口ビジョン(改訂版)(案)</p> <p>資料3 第2期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)</p> <p>参考資料1 地区別の転出入先の分析(平成30年)</p> <p>参考資料2 小牧市在住の在留外国人の分析</p>

主な内容

1. 開会

あいさつ

【市長あいさつ】

本日は、公私ともお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃は、地方創生の推進のためにご協力を賜り、重ねてお礼を申し上げます。今年度は、第2回目の会議となるわけですが、第1回では小牧市の人口の現状分析を中心に議論を行いました。今回は第2期総合戦略（案）について議論いただくこととなります。なお、先日本市の最上位計画であり、まちづくりの根幹となる小牧市まちづくり推進計画 第1次基本計画を策定しました。この計画は市民憲章に掲げる理想のまちを実現するための計画になります。様々な特徴があるところですが、今回この計画に「SDGs推進」の視点を取り入れたところです。本日みなさまにご議論いただく第2期総合戦略におきましても、同様に「SDGs推進の視点」などを取り入れながら、地方創生に向けた取組みを強化していきたいと考えております。第2期総合戦略をより充実した戦略とするため、委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきたくと考えておりますので、ご活発な発言をお願いしまして、簡単ではございますが、あいさつとさせていただきます。

2. 議題

（1）小牧市人口ビジョン（改訂版）（案）について

○事務局より、資料2に基づき、説明。

【事務局】

こちらにつきましては、平成27年度に作成した小牧市人口ビジョンの時点修正を加えまして、前回、11月8日に開催いたしました第1回的小牧市まち・ひと・しごと創生推進懇談会で御議論いただきました人口の現状分析をベースに作成をしております。全体を通しまして1ページから27ページまでは小牧市人口の現状につきまして、自然動態、社会動態、日本人・外国人の別、地区別などの視点にて分析を行ったものを掲載しております。

本日は、前回、懇談会にて説明した内容以外のものにつきまして、その概要を説明のほうさせていただきますので、よろしくお願いたします。

初めに、5ページ、6ページをお願いいたします。

人口性比、女性割合についてです。こちら小牧市は女性数の割合が国や愛知県よりも低い傾向にあります。こちらの件につきましては、現在、パブリックコメントを愛知県のほうでもかけております。愛知県のビジョン、総合戦略の案のほうでも、豊田市などの製造業が盛んな地域を中心に女性の割合が低いということが述べられているところです。

続きまして、7ページ、8ページをお願いいたします。

女性の就業率になります。年次の推移では、20代後半から30代の女性の就業率につきましては、下の図の8-2にありますように、就業率のほうはそれぞれ改善をしておりますが、国や愛知県の割合と比べると小牧市は低い値を示しているところです。

8ページのほう、既婚女性と未婚女性の分別をしております。既婚女性の就業率につきましても、年次推移では上昇をしておりますが、一方で未婚と既婚別の就業率では依然として20代後半から30代前半で大きな乖離があるという状況にあります。

9ページをお願いいたします。

世帯構成、こちらにつきましては、単独世帯の増加傾向が継続して見受けられるところであります。

12ページをご覧ください。

未婚率の推移であります。こちらは年々上昇傾向にあるところです。

次の13ページですけれども、初婚年齢の推移ということで、これは国と県のデータしかございませんが、こちらについても年々上昇傾向にありまして、晩婚化が進行しているというところです。

次に、少し飛びます、20ページ、21ページをお願いいたします。

こちら小牧市役所市民課の窓口で実施しております転出入者アンケート、こちらの内容になりますが、21ページのほうで、転出先を選んだ理由ということで、通勤・通学がしやすい、公共交通の利便性がいいという回答の割合が、また小牧市に住んで不満な点はというものにつきましても、公共交通が不便と回答した方が多かった状況になっております。これは別のアンケートではありますが、この公共交通に期待する役割ということで、名古屋へ行きやすいことという回答が上位に来ていることがわかっております。

続きまして、25ページをお願いいたします。

愛知県内の市町村の年平均成長率というものになっております。2015年から2019年の人口の伸び率といったものになります。小牧市はマイナス0.13%、人口の減少傾向に入ってきておりますということですが、これは国平均と同等ではありますけれども、愛知県平均0.25%より低いということになっております。愛知県内では名古屋市の一部の区や長久手市などでは人口増加を実現しているというようなどころもあり、県全体では人口が増加しているというようなどころにはなっております。

そして、28ページ以降になりますが、第6章、人口の将来展望ということで、これまで説明した内容を含めまして各種分析内容を踏まえた現状と課題を整理したものとなっております。内容といたしましては、丸がついたところにありますように、2015年を境にして小牧市では人口減少が始まっていること、自然動態では2016年以降減少が始まっているということ、社会動態、転出入の関係では2014年以降転出超過が続いているということ、そして近年では外国人人口が増加しているということ、一番下ですが、地区別の話ですが市の東部地区、桃花台地区を含む東部地区の人口減少、高齢化が進展しているということ整理として上げております。

29ページをお願いいたします。

目指すべき将来の方向ということで、地方創生に向けた目指すべき方向としましては、国と同様「継続を力」ということで、引き続き3つの方向を維持しながら現状と課題を踏まえた取り組みを進めていきたいと考えております。3つ印がついたものになります。多くの企業が立地する小牧市ならではの強みを活かす、若年世代の仕事と子育ての両立を支援し、ライフステージに適合した居住環境を提供する、小牧市の魅力を小牧市民及び近隣市町の生活者に伝える、この3点を継続していきたいと考えております。

30ページ、31ページが人口の将来展望となっております。

こちら小牧市の人口につきましては、今のところ2015年、平成27年度に策定しました小牧市人口ビジョンの、シナリオ2・出生率上昇シナリオというものを上回る形で現状は推移をしております。しかしながら、このままいきますと、2018年推計のグラフのほうでいきますと2035年から2040年のところで推計を下回ることが予想されますので、こういった地方創生の取り組みを展開していくことによって今後の人口の減少幅を抑えて人口減少を克服していくべきと考えております。

以上が資料2の説明となりますが、前回の懇談会の議論の中で、地区別、20から40歳代の転出入の分析、また外国人の在留資格等に関する分析をしたらどうかという御意見がございました。それにつきまして事務局にて分析を行った内容を、本日参考資料として御用意しておりますので、参考資料1から順番をお願いしたいと思います。

まず参考資料1 地区別の転出入先の分析ということになります。

こちら平成30年の1年間の転出入数につきまして、市全体と小牧市を、小牧南、小牧、巾下、味岡、北里、篠岡の6地区別、篠岡につきましては桃花台地区をさらに分けて地区別で分析を行いました。表裏2ページございますが、1ページ目は全ての年代についての分析、そして2ページにつきましては、転出超過が顕著である20から40歳代に絞り込んで分析をした結果となっております。また、地区別で転出者数、転入者数を拾ってはおりますが、実数ですと地区ごとの人口差により、なかなか単純比較はできませんので、地区ごとの人口で除した移動割合ベースで比較をつくっております。その結果であります、一番右の転入-転出、転入割合と転出割合の差というところになります、市全体、他の地区と比べまして、篠岡地区、桃花台地区のマイナスの差が大きいということが出てきました。これにつきましては、特に転出割合よりも転入割合が市全体の平均よりもこの篠岡地区、桃花台地区では低いということ。そして、2ページのほうの20から40歳代の転入の割合、こちらが特に低いということ、例えば篠岡地区の転入割合は3.8%、桃花台地区は3.3%ですが、市全体ですと6.6%ということで大幅に差があるという状況です。また、1ページの下のほうには、転出入先の傾向を記載しております。おおむね各地区に隣接する市町への移動が多いという傾向はありますが、それ以外に愛知県内からの転出入で一部特徴がありましたので、枠で囲んだの部分をご覧くださいと思います。

3つ上げておりますが、小牧南地区では、転入・転出ともに愛知県内の占める比率が低いということ、そして北里地区では、転入において愛知県内の占める割合が高いということ、桃花台地区含む篠岡地区では、転出において愛知県内の占める割合が高いという状況がわかりました。

続きまして、参考資料2のほうに行きたいと思います。

小牧市在住の在留外国人の分析になります。こちらは在留資格としまして、上の表のほうで、左から特別永住者から技能実習までの区分、こちらにつきまして、経年での推移のほうを集計いたしました。近年、どの在留資格の外国人市民が小牧では増えているのかということですが、表の右側にあります技能実習、こちらが大きく増加しているということ、また真ん中あたりにあります定住者、こちらについても増加していることが見えてきました。定住者というのは、いろいろ定義があるということで簡単には説明しにくいですが、いわゆる日系三世とかそういった方のところがこの定住者という在留資格に該当します。大まかな区分にはなりますけれども、左の特別永住者から真ん中あたりの定住者までを定住につながる可能性の高い層と考えた場合、そのくくった定住につながる可能性の高い層の外国人市民も増加傾向にあります。また、この傾向につきまして、全国、国の平均と比較をいたしますと、表の最下段に国の直近データとして掲載しておりますが、小牧市では定住につながる可能性の高い層の外国人市民全体に占める割合が70%を超えておりますが、国平均でいきますと50%ほどということで、小牧市ではそういった定住につながる層と考えられる市民の割合が高いのではないかということが言えると思います。

また、下の表です、国籍別の外国人の市民の年次別の推移と国との比較になっております。小牧市では、一貫してブラジル国籍の外国人市民の割合が最も多い状況が続いております。これは、国では中国や韓国などのアジア諸国の国籍の住民が多いという傾向に比べて一つの特徴と言えますが、もう一点、近年ではベトナム国籍の方の割合が急激に増えているというような傾向も見受けられました。

以上、明確な分析というところまでいかなかった部分もございますが、全体を通しての一定の傾向は見られましたので、このような形で御報告をさせていただきます。

それでは、議題(1)の説明とさせていただきます。よろしく申し上げます。

○質疑・意見の発言内容

【伊藤座長】

参考資料1の1ページの下段にて3点分析結果がありますが、その背景・要因について推測できることがあれば教えてください。

【事務局】

まず小牧南地区では転入・転出ともに愛知県内に占める割合が低いという点については、その地区に航空自衛隊小牧基地があり、全国の転勤等の事情があることが考えられます。続いて、北里地区で愛知県内の転入の占める割合が高いという点については、北里地区は小牧の西側で、名鉄犬山線に近く、名古屋で働いたり学校に行くという面でのメリットがあるのではと考えております。そして3点目、篠岡地区（桃花台地区含む）のところで、逆に愛知県内への転出の割合が高いという点については、転出入者アンケートでもあるように、なかなか交通事情が悪いというところで転出につながってしまっているのではないかと考えております。

【水野委員】

9ページに世帯構成が載っていて、単独世帯が増えているとのことですが、単独世帯が増えている要因としては、高齢の単身世帯が増えていると読めばいいのか、それとも製造業に従事し賃貸住宅などに単身で住んで働く人が増えていると読めばいいのか、単独世帯についてどのように分析されていますか。

【事務局】

ひとり暮らし高齢者の増加の部分と、単身で働きに来る方の独身寮等での増加という両面の増加があるのではないかと考えております。

【水野委員】

そうであるならば、この単独で働きに来ている人たちが長くここで働き、そして家族を持つというような政策をしっかりとやっていくということが、地道ではありますが人口増につながると思います。

【伊藤座長】

8ページで、女性の就業率が依然20代後半から30代前半で大きく乖離がありますが、特に3歳未満児に対する保育の受け皿はどういう状況でしょうか。

【小牧市まち・ひと・しごと創生推進委員 櫻井委員】

3歳未満児の預かりについては、小規模保育事業所を整備しており、市内に16カ所、そのうち15カ所が私立で、市立で1つ去年の5月から運営しており、そこで受け皿を確保しています。また各保育園においても受け入れを行っています。

【山下市長】

待機児童については、特に3歳未満児において人数が非常に多かったですが、民間の力を借りながら整備を進め、ようやく今年の春に、4月の年度当初ベースでは待機児童をゼロにできたところです。あと先ほどの単身世帯の話ですが、人口は横ばいなものの世帯数が伸びています。また高齢化率が年々上がっています。そういうことから考えますと、高齢のひとり暮らし世帯というのが増えているというのが一つの大きな要因と思われます。20代、30代、40代は、少なくとも転入出でいくと転出のほうが多いので、そういう意味で単身世帯が増えているという推測は余り成り立たないと思います。

【伊藤座長】

20代から40代の単身者のこういうパターンが多いよという何かイメージみたいなものがありますか。

【西村地方創生アドバイザー】

全数じゃなくて100名に絞ってとかやり方によっては分析が可能というのが1つ。もう一

つが、世の中の働いている人はいろんなパターンがありますし、企業の内部の中で業務が変わるケースもありますので、パターンで見るというのも大切ですが、まずは現状の全体のどこへ勤めているのとか、それは転入の人だけに絞ってもいいですが、そういうところで分析したほうがよい。パターン化していたらシナリオも多く、相手と共働きのパターンとか何パターンにもなってしまいますので、そこは注意したほうがよい。

【名和委員】

地方の大学であれば、自分の出身のところへ就職しようと探される方が多いのかもしれませんが、一旦大都市へ出てしまうとそちらで就職する傾向があると思います。この近辺の大学の方は、就職先としてどのようなところを選択されていくのでしょうか。

【水野委員】

この地域の大学では、実家から通える範囲での就職を目指している学生がたくさんいます。一方で沖縄など遠隔地からも多数進学していますが、愛知県は仕事が多くありますので、東海地方で就職しようと考え、実際にこの地域に定着する学生が多くいます。留学生も同じで、今、生活圏となっている自分の家の周辺で探そうという傾向があります。小牧市に限ってというのは難しいですが、都市ではない地域の大学に通っている学生は地元傾向が特に強いのではないかと思います。

【伊藤座長】

名古屋市内にある大学に勤めていますが、女子大学ということもあり、なおさら親の近くにいたいという思いもあって、割と県内限定が多いです。ただし、それは地元の小牧市でということになかなかつながらないというのが現状であります。

【山下市長】

単身世帯が増えているという9ページの図については、外国人は含んでいますか。

【事務局】

出典が国勢調査ということで、これは日本人のみではなく外国人も含んでいます。

【山下市長】

そうすると、20代から40代の減少化傾向が非常に強くなっているというのは、日本人の数の話でありますので、外国人の方の理由を考えますと、17ページに外国人を含んだ転入出のグラフではほぼ横ばいという形で来ていますので、外国人の単身世帯がどれだけあるかはわかりませんが、若い人ももしかしたら単身が増えているかもしれない。ただ日本人に限って言えば、若い人たちは出ていく傾向が強い。世帯数はどんどん増加しているということですから、高齢者のひとり暮らしは増えているということは間違いない。18ページのグラフ、これも日本人ですが、大学とか結婚とか就職とかそういったときに若い人が出て行って戻ってこないという傾向は非常に強い。小牧としては、何とか戻ってきてほしい。結婚をするときとか出産をするときに家を買うという方も多いと思いますので、そういうときに小牧を選んでもらえるようにしようということで、今、その着眼点での策というのは幾つか打っています。その一つには子育てしやすいまちということのブランドイメージをつけていくということであったり、同居・近居、三世代同居とかの補助を行っていますが、どこまでどう効果があるのかというのは、まだはっきりしていません。

【西村地方創生アドバイザー】

愛知県の方々は、比較的大学から地元で就職するとか、まず大学時点で遠くへ行かないとか、その比率が高いということも踏まえても、大学生の就職動向は、製造業があるから愛知には男性が比較的残りやすい。女性はサービス業など比較的遠くへ行かれる方が多いということを考えますと、今の戦略としては本当にいい取組みをされていると思います。ただ今後は、中国とかサウジアラビアとかいろんな国が台頭してきており、企業のこういう状況も注視

していかないといけないし、多分そこに行政の役割が出てくるのではないかというのを非常に感じます。製造業の今後を考えますと、せっかくいい戦略を立ててうまくいっているのに世の中が全体的に落ちているから苦しくなるというのはどうかというところで、新しいところの視野であったりとか、何か世界を見てやっていけばいいのではないかと思います。

【山下市長】

グローバルな視点からの議論になれば今の御意見はよくわかります。ただ、基礎自治体としてやれることやれないことがありますので、実際の産業振興という意味では市としてやれることは限られているというのがあります。今、産業について言えば製造業、確かに日本全体もそうだし、どうしてもまち・ひと・しごとというところの中で、仕事がなければ住み続けられないという視点から言えば、小牧市は昼間人口比が117.7%あるから、製造業中心だと思いますが、これまでの土台の上に仕事面では他地域に比べてまだ優位性を保っているという状況です。将来を見据えてということはよくわかりますが、それについて言えば、いろんな議論の中で我々ができることがあればぜひまたお知恵をお貸しいただきたいが、実際に知識産業的な部分をやろうとすると、市に何ができるかというのは正直なかなかアクションがわからない部分もありますし、それにどこにいても仕事ができたら、自分の住みたいところに住めばいいということで距離は関係ないという話になりますので、そうすると都会に住みたい人は大都会に行く、田舎に住みたい人はもっと田舎に行く。小牧というのは、どちらかというと、住居としての選択という意味ではまさに人が必要な産業、従業員が大量に必要な製造業や運送業とかそういった産業を除いて、知識産業的なところをターゲットにした場合は、なかなか逆に言えば選びにくい立地にあるということでその優位性というのは、なかなか選択肢に残りにくいと感じています。それで、まち・ひと・しごとの中でも仕事については今一生懸命、製造業についての誘致を進めようとしています。ただ、そもそも引き合いはありますが用意できる土地がない。非常に交通の利便性がよく、まだ引き合いはありますので、そういう意味でできることを今我々は次の時代を見据えても小牧のバランスのいい産業構成とか集積をさらに高めていく方向でいきたいと、また企業が出ていかないように、できれば入ってきていただけるようにやっていこうと、こういった状況にあります。プラスアルファでそのあたり、また次の産業というのを未来産業ということでやっていきたい。ついなので仕事面はそういう状況ですが、人口面でいくと競争相手は近隣市町になります。愛知県内でも明暗が分かれています。過去のブランド戦略立案時の基礎調査で言われていたのは、家を買ったりするときに選ぶのは、昔住んでいたとか、親とか親戚が住んでいるとか、働きに来ているとか遊びに来ているとか、何かしらきっかけがあることだということですので、子育て世代が家を求める、定住してもらうために、先ほど申し上げたような戦略をとっています。ただ、転出理由で交通の便と先ほどアンケートにもありましたが、これはかなり大きいと思っています。だがこの部分は市として何ともならない。ですから、そういうギャップを抱えながらそれ以外のところで勝負しなければいけないということで、非常に悩みながら、やれることをやるしかないというのが実際のところですが、この交通の不便さを覆すような御意見がいただけると大変心強いです。

【伊藤座長】

25 ページに出てくる長久手市は、リニモから地下鉄というところのアクセスの良さというのはわかるんですが、幸田町というのはどうでしょうか。

【山下市長】

大治町も気になりますし、東郷町も気になります。長久手市の延長で東郷町も日進市も増えています。

(2) 第2期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について

○事務局より、資料3に基づき、説明。

【事務局】

それでは、議題(2)の第2期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)につきまして説明のほうさせていただきますので資料3をお願いいたします。

資料3で第2期総合戦略の案として本日用意をしております。順番に概要を説明させていただきますので、まず1ページ、第1章 基本的な考え方です。

1で、総合戦略策定の趣旨としまして、第2期総合戦略策定の考えについてです。

先ほども申し上げましたように、国では地方創生について「継続を力」ということで、従来の枠組みを維持しつつ必要な強化を図るとしております。また、愛知県におきましても、基本目標の枠組みを維持しながら施策の充実を図ることとしております。したがって、小牧市におきましても、国や県同様、第1期総合戦略の枠組みを継承して施策の充実を図りながら第2期の総合戦略を策定するというところで、地方創生の充実強化というところに向けて取り組んでまいりたいと考えております。

2の計画期間であります、第2期総合戦略同様5年間ということで、令和2年度から6年度までということにしております。

続きまして、2ページで第2章 基本目標と施策推進方策であります。

1の目指すべき将来の方向では、先ほど説明した小牧市人口ビジョン(改訂版)(案)で整理した内容のほうを記載しております。

3ページ、4ページをお願いいたします。

2といたしまして、第2期総合戦略の基本目標です。基本目標については、4つ、第1期総合戦略と同様の目標を設定しております。そして、第2期といたしまして、4つの基本目標とは別に2つの新たな視点を加えております。一番下に囲んでありますが、新たな視点1としまして、新しい時代の流れを力にする(SDGs、Society5.0など)、そして視点2といたしまして、多様な人材の活躍を推進する(外国人との共生、女性活躍、高齢者活躍など)、こちらを加えております。これにつきましては、国の第2期総合戦略で追加されたものと同様になります。これまでの基本目標の枠組みを維持しながらも将来にわたって成長力を確保するために各基本目標を横断する形で推進していこうとするものであります。今の内容を体系的にお示ししたものが4ページの図となっておりますので、ご覧ください。

それでは、次は5ページをお願いいたします。

(2)で小牧市まちづくり推進計画及び小牧市地域ブランド戦略との関係であります。冒頭、市長の挨拶でも出ましたが、小牧市まちづくり推進計画という本市の最上位計画を先般策定したところであります。この関係であります、まち・ひと・しごと創生総合戦略では、その最上位計画のまちづくり推進計画のうち人口減少克服や地方創生につながる施策を取りまとめた特化した計画となります。また、地域ブランドにつきましては、住み続けたいと思うまちを目指したイメージ戦略ということで、この地域ブランド戦略の要素も取り入れて取り組んでいくこととしております。

次に、(3)としてSDGsの推進であります。こちらもまちづくり推進計画第1次基本計画においてSDGsを推進していくこととしておりますが、この流れと同様で、まち・ひと・しごと創生総合戦略におきましてもSDGsの目標達成に寄与する取組みを進めていくこととしております。6ページの上部には、SDGsの17のゴールを示すアイコンのほうを掲載しております。このアイコンにつきましては、7ページ以降の基本目標のところにはなりますが、それぞれ関連性のあるものを基本目標に明示をしております。

そして、6ページの下の方策であります。

総合戦略の進行管理につきましては、P D C Aサイクルを確立するため、引き続き当懇談会におきまして各基本目標、そして施策において設定した数値目標や重要業績評価指標（K P I）の達成状況につきまして検証を行っていきたくと考えております。また、検証を検討していく中で必要に応じて施策の見直しを行うなど、そういった形で総合戦略を推進していきたいと考えております。

では、7ページ以降をお願いいたします。

7ページ以降につきましては、第3章ということで基本目標における基本的方向と具体的施策のほうを掲載しております。先ほど申し上げましたように第2期総合戦略ではSDG sの推進ということで、各基本目標の取組みを推進していくことで関連するSDG sの目標達成にも寄与していくというところをわかりやすく明示するために、基本目標ごとに17のアイコンのほうをつけております。

それでは、基本目標の構成についてまず御説明のほうをいたします。

基本目標につきましては、基本目標を進めるに当たってのまず現況と課題を記載しております。そして、その次に現況と課題を解決するために市として取り組むべき基本的方向、そして基本的方向を推進していくための施策を構成しております。そして、それぞれ進行管理、検証のために基本目標の達成状況を測定するための数値目標、そして施策の達成状況を測定するための重要業績評価指標（K P I）、この2種類の指標を設定しております。

それでは、基本目標1から順番に中身のほうを説明いたします。

9ページをお願いいたします。

まず、基本目標1の持続して発展を続ける産業、経済の確立による雇用の確保、創出の基本的方向です。小牧市の強みや特性を生かしながら産業力を高め、市内企業の流出防止とともに市外から多くの企業を呼び込むことで雇用を確保しつつ、将来にわたり持続可能なバランスのとれた足腰の強いまちを目指します。また、市内事業者の近未来技術への対応や起業・創業など新たな取組みへの支援をすることで市内の経済活動の活性化を図りますとしております。そして、数値目標としましては、従業者数以下4つの指標を設定しております。現状と課題を解決するために取り組む施策は10ページ以降に記載してありまして、施策は4つあります。施策1. 企業誘致と産業集積の推進では、次世代成長産業の集積強化、そして次のページになりますが、企業誘致・工業用地の確保、そして、施策2、12ページですが、市内企業の創業支援では、将来を見据えた市内産業力の強化、そして、13ページをお願いいたします。施策の3. 起業・創業支援では、起業・創業支援、そして施策の4. 企業の人材確保と働き手の就労支援では、採用活動と求職活動の支援を行うこととしており、それぞれ施策ごとに目標、主な取組み、指標、こちらを設定しているところです。

続きまして、15ページをお願いいたします。

基本目標2、若年世代の希望がかなう結婚・出産・子育て環境の整備（こども夢・チャレンジNo.1都市の実現）であります。基本的方向は16ページ、妊娠期から子育て期まで誰もが安心して子育てができる体制を整えるとともに子育てと仕事の両立を支える子育て支援サービスの拡充を図ります。また、家庭環境や境遇にかかわらずすべてのこども達が夢を育み、未来を描いて挑戦できる環境の整備及び来るべき未来社会を見据えて充実した教育、子育て環境の実現を目指しますとし、数値目標としましては、合計特殊出生率以下4つの指標を設定しております。そして、17ページ以降、現状と課題を解決するために取り組む施策、こちらのほうを2つ設定しております。施策1では、結婚・出産・子育ての希望をかなえる支援、こちらでは結婚、妊娠、出産、育児の切れ目のない支援、そして子育てと仕事の両立支援を、そして19ページです、施策の2といたしまして、こども夢・チャレンジの応援では、コマキッズドリームプロジェクトの推進、Society5.0を見据えた教育の推進を行うこととしてありまして、

それぞれ目標、主な取組み、指標のほうを設定しております。

基本目標3に移ります。21 ページ、基本目標3、都市の活力と暮らしの安心の創造です。こちらの基本的方向は23 ページです。都市の活力を生むための核となる中心市街地の魅力を高めるとともに、コンパクト・プラス・ネットワークの考えのもと、人口減少と高齢化の進展の中でも持続可能な都市運営を目指します。そして、健康・生きがいがづくりと支え合いの地域づくりの循環により、自分らしくいきいきと安心して暮らすことができる「活力ある高齢社会（小牧モデル）」を構築します。さらに、日本人市民と外国人市民が活躍する多文化共生のまちを目指しますとしており、数値目標は居住誘導区域内人口密度を初め3つの指標を設定しております。現状と課題を解決するために取り組む施策につきましては、24 ページ以降に施策として3つ記載しております。まず施策1. まちの活力の創出では、魅力ある市街地の創出、そして次のページの暮らしを支える公共交通の構築を、そして施策の2. 活力ある高齢社会（小牧モデル）の構築、こちらでは市民の健康寿命の延伸、次のページの生涯学習を通じた生きがいがづくりと人材育成、そして3点目で地域協議会を通じた地域活動の活性化、次のページです。29 ページ、4点目として健康・支え合い活動の充実と地域内循環の促進を、そして施策3. 日本人市民と外国人市民が活躍するまちの実現では、多文化共生の推進を行うこととしており、それぞれ目標、主な取組み、指標のほうを設定しております。

続きまして31 ページ、基本目標4、訪れたいくなる住みたくなる小牧の魅力の発信と創造であります。基本的方向は32 ページ、本市に対する愛着や誇りを醸成するため、地域ブランド戦略を推進するとともに、市内外に本市の魅力を発信することで小牧市の認知度を高めます。また、中心市街地の魅力とにぎわいを創出するとともに、地域資源の魅力を高めることで新たな人の流れをつくります。さらに、定住につながる仕組みづくりにより、若年世代の定住促進を図りますとしております。数値目標は、20 から 40 歳代の平均転出超過数と小牧市に愛着や誇りを感じている市民の割合の2点を設定しております。現状と課題を解決するために取り組む施策につきましては、3つの施策を設定しております。まず、施策1としまして、都市ブランディングの推進では地域ブランド戦略の推進を、施策2. 新たな“ひと”の流れの創出では、中心市街地の魅力とにぎわいの創出、次のページ、35 ページで、2点目として地域資源の魅力の創出を、そして施策の3では、若年世代の定住促進として定住につながる取組みの推進を行うこととしており、それぞれ目標、主な取組み、指標のほうを設定しております。

37 ページ以降につきましては、この第2次総合戦略（案）におきます基本目標と施策、それに係る数値目標とKPIを一覧にしております。それぞれの目標値の説明についてもここに載せておりますので、御確認をお願いいたします。

以上が第2期の小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略の案となっております。

各施策を推進することによりまして、基本目標の達成を目指していきたいと考えております。それぞれ基本目標に対する現況と課題を踏まえた施策、指標について設定しておりますが、その内容につきまして御意見をいただければと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○質疑・意見の発言内容

【伊藤座長】

10 ページの次世代成長産業の集積強化について、その成果というのか、この戦略の手応えというのはどのように感じていますか。

【小牧市まち・ひと・しごと創生推進委員 竹内次長】

次世代成長産業、分野がそれなりに限られた業種になってきますが、一つの例として航空宇宙産業とか、そういうももとの旧来からの地の利を生かして、重工さんのお膝元とか、数年

前は関連の企業からの引き合いとかよくあり、それなりに地の利があるということは実務担当者として感じています。やはり企業立地は地道に進めていく必要はありますので、企業にもいろいろ御意見いただきながら進めていきたい。

【水野委員】

9 ページの数値目標で、従業者数が載っています。従来、製造業、卸売・小売が中心になっていますので、その数値ということですが、今後を考えていく上で、この分野に限って従業員数を取るの意味は何なのでしょう。1 事業者あたりでは製造業、卸売・小売が多いですが、全体でみればサービス業等に従事する労働者も多いことから、全業種の労働者数もしくは従業員数を指標としてもよいのではないのでしょうか。もう一つは、その下の生産、出荷、商品の販売額、これは小牧市の全産業の計の額ですか。それともこれも製造業、卸売・小売に限っているのでしょうか。

【小牧市まち・ひと・しごと創生推進委員 竹内次長】

まず、従業者数については、経済センサスから引用しており、商業、工業、もちろん農業もあります。いろんな産業がある中で、市としては特に工業系は補助制度を含めて支援を行っています。また、商業の振興についてやはり考えていかなければいけないということで、主にこの2つを軸にすることを考えています。製造品出荷額等は、当然そういう製造業の関係で数字を設定しています。もちろん今後いろんな外的な状況も変わるとお思いますので、これをある程度の基軸にしながら、少しでもよい方策を取り入れるべきことは取り入れていきたい。

【名和委員】

企業誘致に力を入れていますが、商工会議所は小牧市などの手をお借りしながら、産業フェスタなどで地元企業の紹介などに力を入れてやっています。対し、新たな企業誘致に関して、外へのいわゆる営業、新たな企業を他市町村に対して誘致をするための、そういったフェスタ的な、何かそういった営業を目的としたものは行っているのでしょうか。

【小牧市まち・ひと・しごと創生推進委員 竹内次長】

情報の発信として、県の産業立地セミナーというのが年に2回、東京と大阪であり、そのときに、いろんな支援制度とか交通の利便性等を東京や大阪のそういう関係者の方にPRをしながら情報発信をして、個別具体的な成果につなげています。

【名和委員】

土地等がなかなか用意できない、大規模な土地が用意できないとのことでしたが、どのあたりの企業、どの規模の企業をターゲットとしていますか。

【小牧市まち・ひと・しごと創生推進委員 竹内次長】

中小企業が立地できるような規模、そういったものが一番望ましいと考えています。当然用地の面積でいうと、大体一番引き合いが多いのは1,000坪から2,000坪ぐらいの間が一番多い。あと、市としてはそういう土地取引が現に民間ベースで行われていますので、それに対する横からの伴走役といいますか、そういう支援をひとまずは努めていきたい。

【山下市長】

業種の問題だとか誘致の問題等、御議論いただいておりますが、我々はまず土地を生み出さなければいけないし、それから過去の引き合いの中で、市外のそういった土地との競合があります。小牧市は、東名・名神・中央道結節点で、陸運の中心地であるというのは間違いないですが、今、道路ネットワークも非常に繋がっていますので、以前に比べれば、土地の優位性という意味では、相対的には低下していると感じています。今は、市内の企業に年間200件目標で訪問して、拡張の希望があるかとか、何か困っていることがないかとか、そういったことについての御用聞きをさせていただいております。あとは水道料金も上下水道と小牧市は安いので、もうちょっとこれはPRしなければいけない。まずは価格差を埋めるために、何かできる

ことがあればということで、今でも補助は行っています。今、市外からの立地で12%、市内での拡張・新投資で8%ということで補助金を出していますが、むしろ1坪当たりとか1㎡当たりとかの価格差を埋めるような提示の仕方のほうがいいのではないかという議論も、商工会議所との間でありました。わかりやすいほうがいいのではないかという議論もありましたので、そのあたりも含めて、補助についてはさらに検討したい。

【坪井委員】

児童館では、現在外国籍の方が非常に増えてきていて、うちでは母語教育を推進して行ってきましたが、多文化の中でいうと、親はまだ外国語が主ですが、子供は完全に小牧の子、その関係をどうフォローしていくかという問題に直面しています。あとは、日本語教育を親の方にやっぱりしていくことが必要ではないかということで、周辺のNPOの方や市民団体の人と連携しながら、いろんな形で実験的にやらせてもらっています。あとは、赤ちゃんが生まれる中で、双子の割合がどうも比率的に上がってきているということを言われていまして、やっぱり皆さん困ってみえて、当然親御さんの支援があればいいんですけども、いろんなパターンがあるので、そういった子たちの支援として、各市町によっては支援策が出てきています。大垣市はタクシー代補助だとか、いろんな形でお母さんたちを支援する施策が打たれています。そういったことが小牧でも、より子育てしやすい環境を整える中で直面していることだと思います。また、こども未来館に、実は私も法人として、住民側としても関わらせていただいて、講座だとかいかにして市民ニーズに応えられるかということをやっていますが、プログラミング教育も始まっていく中で、学校といかに連携して、先進的なものを吸収しやすいような環境を整え、ただそれでもデジタルだけに行くのではなくて、アナログの面でも支えられるように、子供たちが何を実現したいかをきちっと聞きながら進められるように、今、整備に合わせるように、最後に、ちょっと次の施策にも入る部分もありますが、やっぱりよい住環境。前からお伝えしているように、やっぱり小牧の住環境は変わっていく中で、特に東部地区で言えば、ニュータウンが再生されるときに、どのような仕組みでいくのかを結構、期待もありますし、ちょっと思い切った施策をぜひ打っていただいて、新しい人たちがより入りやすかったり、活躍しやすかったりするようことを最初に描いておいていただけるとよい。そういう意味では、小牧は地縁がしっかりしていると思っています。これからも、新しい方が入られたり、成長していく中で、若い世代を応援して行って、僕ら児童館で言えば、そういう方が地縁に結びつくようにということで、地域と密着して運営させてもらっています。もし先ほど言ったような双子とか、そういう何か施策の打てるところがあったら、打っていただきたい。

【伊藤座長】

実際、今、小牧は外国人の方が増えてきていて、多文化共生というのが課題になっており、プロジェクトも組まれているところではありますが、ICT化、翻訳ソフトであるとか、そういうのを活用していくということも一つの手としてあるのではないのでしょうか。また、最近だと保育のICT化がすごく言われていて、赤ちゃんが突然死するというのをモニターで察知しておいてという、ICT化を保育に導入するという形もあったりするので、もちろん多様なニーズに応じていく中で、保育士の皆さんにも非常に負担がかかっている中で、そういう機械の手も借りる、同時に、できればそこにカメラを設置してもらって、外からも動画で見られるということが起きてくると、言葉が通じなくても、親御さんが安心できる材料になったりすると思います。小牧の子育て支援というか保育というものがすごく整備されていますので、ICT化の部分も保育の現場に少しおろしていただいて、活用させていただくと、かなり保育環境としては、保育士も助かるし、親としても情報が共有できるというところがあると思います。実際は、行けないけれど、リアルな映像が見られる、あるいは、後から見られるとかというこ

とは、事実、幼稚園なんかだったら、ユーチューブに流したりとか、もちろん市町村立の保育園なんかでもユーチューブで動画を撮って出している時代ですので、そういう形で安心材料を提供していくというのも、一つ小牧には提案できる場所だと思います。もちろん、そこにはアナログで地縁の支えというのにも必要になってきますが、一つの助けになることではないかと思っています。あとは、ICT教育の推進というところで、もちろん小学校以降、プログラミングが始まっていきますが、これについては国の施策が大分進んでいて、タブレットPCだけじゃとどまらない状態になってきています。恐らく、今年度中には国の施策が出てくるはずなので、センシング機能と言ったりするんですけど、タブレットPCとかデジタル教科書をもっと超えている、次の時代を見据えているので、タブレットPCにこだわるこのやり方は、私はちょっと心配をしています。つまり、5年後にはもっと小さい端末になっている可能性があります。回答を始める時間とか、そういう個人データが蓄積された形でやっていくというのが、もう国の全体の指標に入っていますので、タブレットPCだけにこだわらないほうが、恐らく柔軟に小牧のICTを活用できるのではないかと思っているので、せめて「など」というのを付けていただきたい。ただ、小牧のコマキッズドリームプロジェクトというのはすごく良い取り組みで、これは全面に出してもう少し他市町に展開していただくということが一つと、3歳未満児の待機児童をゼロにしているというのは、すごく評価できる場所ですので、そこがクリアされると、次は3歳児になったときにどこに入るかということになっていくので、その辺のスムーズな連携というのを小学校へ上がるまでやっていただくと、不安がないのかなというふうに思うので、そこもICTをうまく使っていただいて、アナログでペーパーを送るんじゃなくて、もうインフラを使って送るぐらいの整備をしていただくと、職員も楽になりますし、親としても情報共有がされているんだと。これは、発達障がいとかが今増えてきていますので、その不安に応えるためにもそういうネットワークをつくっていただくとよい。小・中学校ではできていると思いますが、幼保・小学校まで全部含めてやっていただくと、かなり安心できると思います。

【水野委員】

16 ページで未就学児がいる母親の就業率の目標値が設定されています。未就学児というとき、先ほどの3歳というのが一つ切れ目ですけれども、今回、無償化の対象等もあって3歳児以上の親が働き始めている、もしくは労働時間を長くするようになってきていると思います。数値目標としてはこれでよいのかもしれませんが、現状を把握するためには、末子が3歳未満なのか、それ以上なのかを見ていきますと、母親の就労の状況がよく見えてきます。もう一つ、小学校1年生の壁とよく言われますが、小学校に入ると今度は預かってくれる時間が短くなって、母親が退職や転職を余儀なくされるといった問題が出てきます。保育園から小学校へのつなぎ、両親が安心して働き続けられる環境づくりを施策の中で考えていくときに、末子3歳未満、3歳以上の未就学児、小学校低学年の子を持つ母親等の就業率を把握しておく、より実態に沿った施策が行えるのではないのでしょうか。

【山下市長】

保育園については7時—19時ということで、できることを市内に幾つか置いてやっていますが、放課後児童クラブについては、今18時半であり、あと30分がなかなか難しい。人材の面が一番難しいですが、そのあたりも要望はありますので、現場とうまくやっていかなければいけない。基本目標2の議論というのは、1では働く場所、2は子育て環境ということでやっていますが、まず働いて、子育てのしやすいまちだと人は来てくれるんじゃないかという仮説のもとに、このプランがあるので、この方向で努力して行って本当に小牧に住んでもらう。そこのポイントの議論が重要でありまして、もちろん働きやすいとか、産業があるとか、あるいは子育てしやすいまちという実態も、一生懸命もちろん頑張っていくけれど、これを努

力していく方向の中で、本当に定住促進につながっていくのか。あるいは、小牧の子育て環境、我々も非常に教育・子育ての環境については、他市町に引けをとらない、むしろかなり充実したものがあると思っていますが、実際にそれが本当に伝わっているのか。また、それは本当に訴求力があるのか。それで小牧に住もうという人たちがどのぐらいいるのか。

【西村地方創生アドバイザー】

春日井の企業とか、近隣の大きな企業の人たちはどこに住んでいるかなど、何となく実感ベースで皆さん持っているのではないのでしょうか。そのデータを突き合わせながら、分析するといいいのではないのでしょうか。

【伊藤座長】

女性のほうが地元に残っていてというときに、やっぱり親のほうは戻ってきてよとか、小牧だと子育てしやすいよとか、小牧って今こういうふうに変ってきているよというのをやっぱり親世代、おじいちゃん、おばあちゃん世代が言っているかどうかとか、小牧いいよというふうに感じておられるかどうかというのは、すごい大きいところだと思います。

【田中委員】

ひとり親家庭の支援という部分の中で、駒来塾とか、児童クラブとか、そういった部分なんかも、特に学校へ行く世代になってくるとどうしても施策から見えないところが出てきますが、そういった部分がしっかりと施策の中に取り入れられていて、学校だけではなくて、地域を巻き込んだ形での動きがあるというところが、私はすごく強いと思います。

【伊藤座長】

どうしても学校では平等にという扱いになってしまうので、ひとり親世帯もそうですが、経済格差であったりという部分が全部隠されてしまうところがあります。それは今、駒来塾であったり、特にさっきの地縁とかというところで、地域のいろんな人材がそういうところでサポートに入ってくれるのは、すごく大きいと思っていますが、そこに関わろうとする人たちというのは、どういう方々なのでしょう。

【田中委員】

区の役員とか民生委員が中心ですが、やっぱり意欲のある方というのが中心かなと思います。ただ、ちょっと懸念するのが、ある程度顔ぶれは決まってくるというところがありますので、そこをどう広げていくのか。

【伊藤座長】

気になっているのは高齢の方々という、さっきも顔ぶれが決まってくるというのは、ある程度、仕事をリタイアされた方なんかボランティアでやってみえるパターンが多いと思いますが、なかなかそこに次の新しい人が入ってきていない。生きがいきりというところが今度小牧の新しいモデルになると思っています、ここへの働きかけというのが出てきてはいると思いますが、なかなかそこに入りづらい。壁を乗り越える策みたいなものは、何かありますか。

【山下市長】

地域協議会については、今16小学校区のうち、11まで来ており、何とか全地区にということを考えています。これから、行政だけではとても賄えない多様なニーズについて、やっぱり地域で支えていただける人材を育成していくということについて、もう少し生涯学習とか、きっかけづくりに力を入れていかなければいけないんじゃないかという議論は前からありまして、今回のラピオの再生の中でも、市民活動センターを移転して拡充をしますが、そういったこともあり、図書館もあり、そういった中で、やっぱり生涯学習、社会教育の点で、いわゆる自分の趣味の世界だとか文化活動という枠を超えて、さらに地域の担い手になっていただけるような市民活動とか、ボランティアだとか、地域活動に行けるような、そういうきっかけになるような講座なりセミナーというものを充実させていかなければいけないという議論を今

行っています。例えば、無作為抽出の市民討議会なんかをやっていて、ああいう手紙が来て、たまたまそのときそういう気分になって、行ってみようかみたいところで来た方々が議論していくと、なかなかこういうまちづくりもおもしろいということで、それがきっかけになって活動やいろんな取組みに参加しようとなってくるというのはありえますので、そういうきっかけをやっぱり我々はつくって行って、人材を地域に広げていかなければいけない。

【田中委員】

施策の2のところの活力ある高齢社会ということで、小牧モデルについてどんなものなのかというところを教えてくださいというのが1点と、あともう一つ、市と社協のほうでサロン活動を広げていくということで、今市内に79カ所で、会館をベースとしたところで高齢者の方が集まっていたいて、つながりづくりをしていくという活動を行っています。その中で、そのサロンが多機能の効果を持っていこうということで、1つはフレイル予防であったり、健康を増進していくという意味での「こまき山体操」というオリジナル体操のお披露目であったり、生きがいとつながりという部分で、来る見守り、つまりそこにいつも来ているよねというような見守りだとか行っています。それから、企業の協力ということで、そこへの送迎だとか、例えば物品の寄附だとか、人的な労力支援ということで企業が関わっていただけるとか、あと専門職がそこへ来て相談をすとかということで、そのサロンという小さな拠点単なるつながりだけじゃなくて、いろんな高齢者とか地域の中の情報を集約する一つの拠点になってきたなということを感じています。ただやっぱり担い手のほうも少し高齢化が進んできているということで、今のボランティアが抱える問題と一緒に、やっぱり少しずつ同じ顔ぶれの人たちが行き詰まってくるというところで行くと、次への展開という意味では、今回、その小牧モデルをどんなふうに進められるのかということもちょっと注目しています。

【山下市長】

活力ある高齢社会（小牧モデル）というのは、基本的には健康・支え合い循環都市という、今回、まちづくり推進計画で掲げた、それと基本的には同じ意味で使っていますが、やっぱりこれだけ高齢化が進んで行って、支える人口が減っていく、生産年齢人口が減っていく、どうするんだというような議論から、やっぱりそうじゃなくて、これだけ高齢者が増えていく、でも元気な高齢者の数も増えていくんだから、そこのお力をお借りしながら、まずは健康で長生きしてもらおう。その上で元気にいろんなことに興味を持って、遊びながら生き生きとやってもらえばいいんだけど、たとえ月に1回でも、1週間に2時間、3時間でも、地域活動で助ける側にも回ってもらいたい。それはやっぱり、元気と支え合いの循環を地域で生み出していくような、そういった仕掛けをつくって行って、新しい形での支え合い活動を地域で行っていく。そういったいわゆる健康で元気な高齢者が地域の支え合い活動で活躍するのが、活力ある高齢社会、これが幸せな高齢社会じゃないかと。そういう意味で使っています。今まさに、フレイルの話もありましたが、支え合いいきいきポイント制度で御自身の介護予防として、さらにはお手伝いとして、今サロンの運営をやっていたり、あるいは介護施設でお手伝いをやっていたり、地域協議会での支え合い活動、こういったことについてポイントを付与しています。手帳にシールを貼って行って、500ポイントで500円の市内限定商品券で還元しているわけですが、今の高齢者サロンについても、その運営についてはお手伝いしてくださいということで、そういったきっかけとか励みにということで、今やらせていただいています。これをさらに広げていきたい。

【伊藤座長】

今困っている人に対してターゲットにするということもありますが、本当に支えなければいけないのは介護する側の人です。介護する人を支えるシステムというのがないといけなく

て、介護した経験のある人が元気なうちに次の支え合いに入っていくという。あるいは、介護しながらでも支え合いに入っていけるというのが本当は理想ですが、その準備期間というか、前の時期といたらいいなかな。現役世代であるだけけれども、介護の予備軍である、あるいは、子育てというところについての予備軍である人たちというところにどう働きかけていくかがすごく重要で、そこがやっぱりまだちょっと十分じゃないんじゃないかなと。結婚のことで言うならば、大学生ぐらいに対して働きかけていく。小牧を出ていっているだけけれども、たまに帰ってくる時にどうアプローチしていくとか、小牧から情報発信がどれぐらい出ている、それが市内にいないだけけれども、市外にいる中で、地元はこんなことをやっているんだなということを常にキャッチできるとか、そういうシステム。もちろんフェイスブックとかで発信をしているんですけども、それをもっと身近に感じられるようなイベントがあったりとかということが、成人式は一つのポイントではあるんですけど、それは20歳なので、卒業まで時間もありますし、むしろ大学3年生とか、就活の直前ぐらいにアプローチできるようなものというのがあってほしい。いずれにしても、恐らく高齢者人口が増えていく中で、介護というものがものすごくみんなにとって共通課題になっていく。もちろん、フレイルというのも一つの前段階としてみんなが予測する、その前の人たちにどうアプローチしていくかなので、そこへの発信力というのをもう少し高めていただけるといいと思います。

【西村地方創生アドバイザー】

1つ本当に素晴らしいと思ったのは、SDGsにすごく力を入れているということ。やっぱりこれだけ今、プラスチックの問題であったりとか、そういう問題意識が高まっているところがあり、SDGsというのは、今の子育て世代であったりとかには関心があると思います。2つ目は、指標設定についてで、あまり負荷はかけてほしくないということ。最後に、市民満足度系の指標が何個か見受けられますが、アンケートの回答率は50%とか60%ぐらいが多い。QRコードとかをいろんな場所に置いて、簡単にすることによって回答率を上げてほしい。60%の回答率と80%の回答率で意見は違ってきます。

【山下市長】

まちづくり推進計画では、数値目標は資源を優先して投入できる市政戦略編で置いていて、分野別は矢印で示しております。今回数値目標で示しているKPIが多いですが、矢印ではだめですか。

【事務局】

KPIは交付金等の関係で数値目標が必要ということなので、今回所管課のほうにお願いして数値を置いています。

【西村地方創生アドバイザー】

交付金の関係からすると小牧市のためにはあったほうがいい。ただ、指標の量としては、負荷は減らしたほうがいいし、これだけあると管理も大変だと思います。

【山下市長】

数値目標はいいが、外的要因に左右されるKPIが相当あるように思います。

【伊藤座長】

西村アドバイザーがおっしゃったように、現状どうなっているのかということを知るために知らなければいけない、調査しなければいけないことと、目標として設定するものというのは少し区分されて、ターゲットも少し、調査する対象も、満遍なく取るんじゃなくて、本当にそれを必要としている人たち、あるいは年齢層とか、そういうところで区切って、調査規模を少し小さくしてもいいので、正確にニーズに答えられているかということ把握できれば、さっきのサロンを活用されるとか、そういうところでやられるのも一つの手かだと思います。また、今回の分析で小牧市の今抱えている現状はクリアになってきているので、やはりそこに対

しての施策というのを着実にやっていくということが、このまち・ひと・しごとという一つの政策の中にあると思いますので、ここを着実にやっていただくということ。と同時に、グローバルな流れに流されずに、いかにグローバルの課題の中で小牧市らしさを出していくか。外国人の流入が多いところにおいて、どうやって小牧市としてそれらを生かしていくかということ。それから、高齢者が増えていく、若年人口の流出をいかに食い止めるかというときに、力を入れておられる若年世代の育成というところ、青年層ですね。20代、30代へのアプローチということ働きかけていくことが、恐らく将来のケアの担い手の育成につながっていくと思います。あるいは、航空産業といった未来産業の担い手というのに対して、小牧市にいて、あるいは小牧市に引き込むところとかというところのアプローチがもう少し出てくるのかなと思います。企業という単位で考えれば、確かに難しいところはたくさんありますが、やっぱり人材というところで考えていただくと、まだまだ打てる手はあるのかなというふうに見ているので、やはり人。人というところがあってこそなので、そこを少しみていただくといいと思います。

【山下市長】

本格的な人口減少時代に突入していく中で、小牧も人口減少の局面に差しかかっています。非常に危機感を持っています。人口を増やすというとなかなか難しいんですけど、減らないように何とかしていきたいし、特に若年人口を減らさないように頑張っていきたいと思っています。

3. その他

- ・本日の会議内容について、委員確認後、市のホームページで公開することを報告。
- ・今後のスケジュールとして、議会からも意見をいただきながら、市民から意見をうかがうためにパブリックコメントを実施し、第2期総合戦略をすることを説明。